

少子高齢化・人口減少社会における交通政策に関する研究(平成20年度・21年度)

(三世代共生ユニバーサルデザイン社会の構築に向けた調査研究)

平成20年 国土交通省 国土交通政策研究所

課題設定

少子高齢化の急速な進行に伴い、高齢者、親、子どもの三世代の共生が可能なユニバーサルデザイン社会の構築が極めて重要な課題となっている。公共交通の分野では鉄道駅等のバリアフリー化が進められてきたほか、「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」の施行により、関係者が連携して地域のユニバーサルデザイン化に取り組むためのスキームも整備されたところである。

本調査研究では、まず、全国(鉄道駅等のバリアフリー化が進展している地域)の高齢者及び子育て世代を対象にインターネット調査を実施し、鉄道駅等がバリアフリー化されたことにより高齢者及び子育て世代の公共交通を利用した行動に変化がもたらされたかについて検証する。

その上で、最近バリアフリー化が進展した調査対象地区(ケーススタディ対象地区)(注)において、公共交通の利用促進に資するようなイベント等の機会を活用した高齢者及び子育て世代の公共交通利用に関する意識調査や地元商店街等を対象としたバリアフリー化による人流の変化への対応等に関する聞き取り調査を実施し、鉄道駅等のバリアフリー化が「高齢者及び子育て世代の公共交通を利用した外出の促進」や「移動の増加を通じた地域の活性化に及ぼす影響」について個別・具体的な効果分析を行う。

さらに、これらの分析結果等に基づき、バリアフリー化された鉄道駅等の有効活用を軸に高齢者及び子育て世代の外出促進を通じた地域の活性化を図っていくためのヒント集を作成し、全国各地でのユニバーサルデザイン社会の構築に役立つ知見を提供する。

(注)調査対象地区は平成20年度は、東京都杉並区内の京王電鉄井の頭線の鉄道駅周辺、平成21年度は、関西地区1箇所を予定。

内 容

(全国調査及びケーススタディ事前調査)

- ・全国の高齢者及び子育て世代を対象としたインターネット調査(鉄道駅等のバリアフリー化等による行動の変化 等)
- ・調査対象地区における基礎調査(高齢者及び子育て世代の居住・活動状況、バリアフリー化への取り組み状況 等)

(ケーススタディ)

集客イベントの機会を活用した、バリアフリー化された公共交通の利用状況に関する調査

(調査対象地区住民(モニター)、調査対象地区外からの来訪者に対する意識調査及び地元商店街に対する聞き取り調査を実施)

イベント例：地元大学での公開講座・講演会

- ・鉄道駅周辺、商店街等における集客イベント
- ・高齢者等の介助教室及びバリアフリー体験教室 等



Output

効果分析

高齢者及び子育て世代の公共交通を利用した移動は増加したか
経済効果の分析
全国と比較した調査対象地区の特性はあるか

一般化できる知見の抽出、ヒント集の作成

- ・自治体 地元大学
- ・交通事業者(電鉄/バス)
- ・地元商店街 等

Outcome

他の地域に知見を提供

- ・バリアフリー化された鉄道駅等を軸に周辺地区を整備しようとしている地域
- ・新バリアフリー法に基づく協議会において基本構想の作成等を図ろうとしている地域

- ・高齢者・子育て世代の移動の活性化
- ・消費活動の促進
- ・バリアフリー化された施設の有効活用
- ・新バリアフリー法に基づく協議会の円滑な運用